

小田会長の独り言

目次

- 1 : 先進国の中で労働成果が 135 位、余りにも酷い落ち込みだね？
- 2 : 外務省には数千名の「調査員」「コンサル」と名乗る職員が在籍している。
- 3 : 岸田さんの「新資本主義」は「国民を甘やかすだけ甘やかせ」だね？
- 4 : 国民の皆さんへ！外務省の本当の姿はこうだ！
- 5 : 出鱈目 ODA に国税を無駄にしている。 (エチオピアでの実話)
- 6 : “私とキャリアが外務省を腐らせました。” (実話 講談社)

先進国の中で労働成果が 135 位、余りにも酷い落ち込みだね？

世界の 3 等国に一気に仲間入りだ。これで、公務員ボーナス受け取れる。

気が咎めないかい。コロナ禍の中でも、我々弱小、中小企業は会社を潰さないように、懸命に働いたよ。この 2 年、公務員はへまばかりが目立つたよね。仕事が出来ない、仕事でへまして、責任も負わされない。公務員が「仕事で無能」を世界中にさらしたのだ。

この、世界 135 位は、国家の未来に由々しき事態だが、我が首相の「新資本主義」の辞書では無視で良いのかね？

自殺者、退学生、市民は何とか未来への希望を求めているのだ。
国民の悲しい、せつない声も永田町には聞こえないのか？

2021/12/22

小田 兼利

外務省には数千名の「調査員」「コンサル」と名乗る職員が在籍している。

不埒なのは、外務省や省庁幹部が、自分の情婦を職員として入れ込んでいる例が多いことだ。中には警察幹部さえいる。

この数年、外務省、JICA の仕事が一気に増えたコンサル業者を、調べれば調査員と称する職員の急増が目立って増えている事に気付くはずだ。

君らの 80%は公金横領の経験者だ。あれで襟を糺したかと言えば、それ以上にズル賢く悪質になったよね？

日本人の国際機関勤務者が、「日本の外務省は、日本人に冷たく、外国機関の方を大事にしている。」と皆が云う。こいつら、日本の外務省では無く「国際公務員だ」と、己惚れているんだよ。

調査員、コンサルが如何に、日本の血税を浪費して来たか、大掛かりな国を挙げての会計検査が必要だろう。

ODA50%減額、外務省職員 50%削減、JICA, JETRO は併合。
今に現実味を帯びて来るよ。

2021/12/21

小田 兼利

岸田さんの“新資本主義”は「国民を甘やかすだけ甘やかせ」だね？

北海道を人工衛星の基地にする！ とか、何処どこで新事業を始めるとか、夢の様な企画が多いよね？ でもね！ 私たちの様に「政府の助成など一切受けず、20年間我慢に我慢を貫いて自力で世界一の技術として、成長した経験からすれば」夢の様な企画も「誰かが寄付、投資してくれれば……」の、条件付きでは、虫が良すぎはしないか？ 北海道なら、農業漁業で、自力で食いつなぎ、自力で頑張りなさいよ。

美談めいた話を創り、金を集め「いいところ取り」は、乞食商法と変わらないよ。こうした風潮に同調する、マスコミ、岸田内閣等は、失敗してもどうでもいいのだよ。

この無責任さが、いずれ国を滅ぼすよ！

参議員選では立憲と、自民に痛い目を国民は合わせねばならないと思よ！

2021/12/20

小田 兼利

国民の皆さんへ！外務省の本当の姿はこうだ！ (第一回)

大阪のこの小さな会社が政府の補護、援助も無く世界80ヶ国に拠点を置き、途上国の2千万人余りに安全な水を提供し、浄水場周辺で職を得た人々は、優に数万人規模まで拵げているのだ。

私達はこの過程で、仲間を大勢犠牲にしてきた。

特に、慙愧に耐えず悔やまれるのが、ソマリア、中東での私のエーゼント、後藤健二氏の事である。

彼が捉われた際、私は内閣参与の谷口氏（現慶応大学教授）に、以下を依頼した。「私が身代わりに行く！ イラク、シリアの水問題を解決するまで、人質として私が残る。」と提案をした。

谷口氏からは、「政府としても無視できない提案です。内閣で協議します」の答えだった。その後、度胸も権限の欠片も無い、中山議員が派遣され結末は斬首。

後藤氏の奥方が、緒方貞子先生の秘書官であったことでの「特別扱いに逆配慮があったともいわれている。「その通りだったと思う。この国はこんな馬鹿な事を平気でやれる無責任な国家だ」POLY-GLU チームが、紛争地で危険な目に遭い、いかに多くの銃撃戦に遭い、数多くの犠牲者を見てきたか、外務省のいても居なくても良い、いい加減、無責任な調査員や、コンサルらには、100分の一の苦勞も解るまい。

血税の無駄遣いに平気な無責任公使・大使の実名を明かしながら、今後公表して行くことにする。

恥知らずの外務省官僚も、自分の顔写真が無能職員と評され、公表されれば多少は恥じ入るだろう。自分は安全な地で、事が起れば、現地の同僚を見捨てて、真っ先に逃げ出す。

それでも、日本人か？ エチオピアから早く逃げないと危ないよ！

お前たちあかんたれの為に、自衛隊はジプチに待機しているんだぞ。

ソマリアでの後藤氏中心の集合写真見てくれ！

2021/12/13 小田兼利



<WEB より>



2015/3/3 ソマリア難民キャンプに設置した
簡易浄水設備の完成にあたって。
向って左から、中佐氏 (IOM)、後藤氏
熊丸氏 (IOM)、小田、伊藤氏 (IOM)

国会議員は何処を見ているのか！

外務省 ODA 未消化資金 3,000 億円余りは国庫に返せ！

外務省は未消化分を「極力減らす」と言っているが、国民の目に届きにくい途上国で、出鱈目 ODA に国税を無駄にしている非道な例を示そう。

「エチオピアの飲料水問題を解決する」目的で外務省は約 1,000 万円の予算でアジスアベバに中型浄水場を当社に造らせた。[添付資料こちら⇒新聞報道等](#)

現地提携企業は在日本大使館が紹介して、先にその団体に外務省は全額支払い、当社には後程払わせる計画だった。その団体が、性質が悪く当社職員が請求しても、応じようとしめない。大使館に善処を求めても、直ぐ転勤、転勤で館員は同じ扱いを受けては沽券にかかわる。逃げの一手だ。当社は鈴木大使と、水資源大臣の公的発表、約束を信じきっていた。同国に 20 ヶ所余りの浄水場、道の駅を建設する企画だった。

ところが、外務省や関わりある本邦商社、コンサルは「自らにもと予算の配分を強請り、何が何でもと配分をねだる。

これには、ヤマハも拘わり、POLY-GLU が「途中で放棄した」と悪宣伝を流している。鏝一文当社に政府は払っていないのだ。全責任は政府にある。

外務省は、エチオピア政府、当社への立場に良心が咎めたのだろう。

何せ、当社は橋本龍太郎氏以来、歴代総理の前で技術を披露し、天皇陛下にも 3 回研修を行い、参議院参考人、国連スピーチ、青色ノート 2 回掲載。

何十冊もの政府刊行物に登場しているのだ。今や世界 80 ヶ国に拠点を立てている。外務省は当社へのつじつま合わせに、大型浄水場を当社に発注して、埋



毎日新聞 WEB より

め合わせをしようと考えたのだろう。工事現場の選定、浄水所規模、工事容量など全ては、**外務省OBのコンサル企業 クラウンエイジェンツ社 が行った。**

私とモニル国際部長は直ちに、現地調査に赴いた。**何と、3 部族が血みどろの紛争を続けている中心地ではないか。**

このコンサルは一度も現地に行ってもいない。外務省は多

額のコンサル料を払っている。

次の案件も引き続き流しているに決まっている。

あのまま、我々が現地調査をせずに、請負っていたら、我々は今頃殺されていたらろう。

ODA 積み残し金「3,000 億円早く遣え」は、泥棒猫に「早く喰ってしまえ」

と言っているのと同じだ。BOP ビジネス官民連携で JICA は「幾ら無駄金を遣ったか？」400 億円は遣っただろう。性懲りも無くまだ続けている。

それを仕切っているコンサルは、1~3 年でどれだけ肥大したか。

外務省癒着組だけが、国税を浪費している。壮大な無駄だ。

私は 2 年間、審査員を務めた。仕切っているコンサル企業の無知、審査員の無知、無責任さにあきれて「3 年先には結果は判る」と捨て台詞を残し辞任した。

外交部会の議員さんよ！ 尊敬する大野泉先生！ 晩年を汚していませんか？

修学旅行の様に、与野党仲良く外務省、現地大使館の案内で、ODA の良い所ばかり見せられ満足しているようだが、見えない所、見せれない血税の無駄、私が幾つも見せてあげますよ。

外務省職員は、国益では無く『省益』縄張り拡大のために働いているんです。

田中均が存在していたから、此処まで拉致家族問題は拗れ、解決を困難にしたのだ。拉致家族にとって、田中均は絶対に許せない存在だ。

一方、彼は日本総研を筆頭に、外務省天下り先の確保、拡大を露骨に進めてきた。彼が関わる様になって、日本総研の業容は膨張を続けている。

チャイナスクールの面々の、ズル賢さ。国民には『国賊』でも、外務省職員には『英雄』なのだ。

当社の小林が悔いていた通り、外務省は国民の事では無く、自分たちの私利私欲の縄張りと化しているのだ。

惨めな、破廉恥な外交官たちだよ！

「石つぶて」が映画化されて、再び外務省の不幸事が表面化して、小林の著書が隠れたベストセラー化しているが、外務省職員 80%が、公金不正利用と云う犯罪に無神経に関わっていたのだ。1 千万円以下は不問、1000 万以上は懲戒！

でも、20%の職員は精励だったとは嬉しいね。事実、ODA の 20%は国際社会特に農業などに貢献しているのだ。

この国を、駄目にしたのは外務省だよ。それも、第 2 次開戦時の開戦通告の駐米大使館の無策が、始まりだね。その後、日本大使が、どこかの国で、先頭に立ち、世界の諸問題に介入したことがあったか？ アフガンも、ミャンマーも、アフリカ諸国、中東等々、大使、外務省に何が出来た。エチオピアからは逃げ帰る用意で我が身が心配だろう。一諸に働いた、エチオピアの同僚の事など、頭の中には無いのだ。

国連で外務省出身者 12,3 名を幹部にする事を良とする外務省が、日本が常任理事国として発言することを、中国など容認するものか。

衆議院選前に、ODA 資金は官邸の機密費に化けて、参議院選前にばら撒く気だ。国民には、維新、国民玉木氏の「玉砕覚悟の鬼退治」しか希望は無い。

関西から日本を変えよう、関西には自民も、公明も不要だ。

グロムイコ同様、世界に向けて発言できる安倍元総理を外務大臣に押そう。



完成した浄水装置
エチオピア オロミア州



参加した子供達と日の丸

Ministry lauds simple type water treatment system

ADDIS ABABA — A Japanese company, Poly-Glu Business Co., Ltd, has displayed a simple type, innovative, cost-effective and environment friendly water purification technology here yesterday.

Speaking at the event yesterday, State Minister of Ministry of Water, Irrigation and Electricity Kebede Gerba said the technology could benefit communities to get access to clean drinking water particularly in rural parts of the country. Thus, attention would be given to working jointly with the Institute of Water Technology.

According to Embassy of Japan press release, the State Minister said such easy and cost-effective technology is useful to improve the water supply system across the country.

During the event, Mr. Kanetoshi ODA, Chairman and CEO of Poly-Glu Social Business Co., Ltd introduced the "Simple Type Water Treatment System" and demonstrated its water purification procedure with flocculant powder called PGa21Ca® (commonly known as Poly Glu), hoping to contribute to improving and enhancing many Ethiopians' access to safe drinking water.

ODA said the system has already proved great successes in rural and urban communities in Tanzania, Bangladesh and Somalia. Currently, it is seeking for opportunities to replicate the successes into Ethiopia with its pilot project in Burayu town, Ethiopia in collaboration with the Government of Japan.

Japanese Ambassador Kazuhiro Suzuki expressed his expectation that through Poly Glu's unique clean water creative method, the Ethiopian society can benefit from bottom sanitation and can improve the quality of life thereby contributing future.

The event was attended by senior government officials and potential public sector stakeholders, civil society representatives and media professionals.

説明会風景（大使館内）
現地新聞報道



**SYMPLE TYPE WATER TREATMENT SYSTEM
WITH JAPANESE TECHNOLOGY**

On 10th February 2016, the Embassy of Japan co-hosted an open briefing "Simple Type Water Treatment System", an innovative and environmentally-friendly water purification technology invented by POLY-GLU SOCIAL BUSINESS CO., LTD., a Japanese SME based in Osaka Prefecture.

The system has already made great successes in rural and urban communities in Tanzania, Bangladesh and Somalia, and POLY-GLU SOCIAL BUSINESS CO., LTD. is seeking for opportunities to bring their successes into Ethiopia with its pilot project in Burayu Town in Oromia Special Zone in collaboration with the Government of Japan.

In his opening remarks, Ambassador Kazuhiro SUZUKI expressed his expectation that through Poly Glu's unique clean water creative method, the Ethiopian society can benefit from bottom sanitation and can improve the quality of life thereby contributing future.

During the event, Mr. Kanetoshi ODA, Chairman and CEO of POLY-GLU SOCIAL BUSINESS CO., LTD. introduced the "Simple Type Water Treatment System" and demonstrated its water purification procedure with flocculant powder called PGa21Ca® (commonly known as Poly Glu), hoping to contribute to improving and enhancing many Ethiopians' access to safe drinking water.

The event was attended by important partners of this initiative, including H. E. Ato Kebede Gerba, State Minister for Water, Irrigation and Electricity, as well as potential stakeholders from the Government of Ethiopia, the civil society and the media community.

February 10, 2016
Addis Ababa

大使館名によるプレス発表



開所式典 テープカット
小田（中央）鈴木大使（左）
同国水省大臣（右）

2016/8/5 Ethiopia

JICA、大使館、政府機関の上等な印刷物の氾濫、印刷物を、外務省、各省庁は天下り先が受注して、縄張り内の印刷業者に配分し、手数料をせしめている。この無駄金は兆に達するよ。国交省などの出版物は膨大だ。公明党の隠れた資金源だ。何故、公明党ばかり国交省握るのか？利権の温床ではないか。

我国にも老練な外交官、政治家が存在している。問題があれば現地に飛び、直談判を始める。グロムイコ、ドイツ首相、ジョンソン、中国、米国、安倍元総理だ。

一方、岸田内閣は世界最低だ。アフガンに8,000億円使った。日本の為に働き、日本を信じていたアフガンの友人たちを、現地に残して逃げかえる日本大使。お前が最後までいなくてどうする！

また、ミャンマーでは軍とも親しい信望の有る大使が頼れる存在だと言われていた。この大使は今何している？

真珠湾攻撃以前の、最後通達の文章の大使館の無様な不用意さ、危機管理、この事件をきっかけに世界は変わったのだ。日本は戦争に負けたんだよ。外務省、いい加減国民を欺くのはやめろよ！胸の緑のバッチ全員外せ。

常任理事国になって、日本の意見が通るはずがない、国連だと君たちは百も承知だよ！ 僅か12~3名の局長級獲得の為に、外務省縄張りの拡張だろう。国民は明確、解りやすい外交を望んでいる。

大阪から自民、立憲、公明は不要だ。

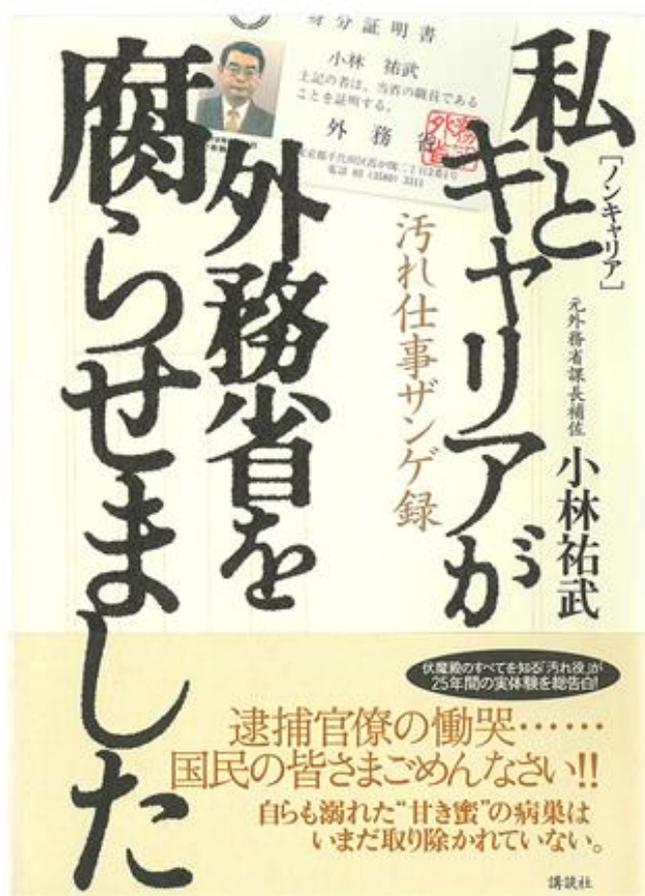
小田兼利

テレビ放送以来、小林祐武の“私とキャリアが外務省を腐らせました。”（講談社）が隠れたベストセラーになっています。

彼の慟哭を最も知る私は、多くの人に外務省の出鱈目振りを知って頂きたい。

以下本書より。

第一章「公僕」の名が泣く外務省キャリアの生態・コネ社会の誤ったエリート意識



一連の事件で外務省のイメージは大きく損なわれたのだが、しかしそれでも「外務省職員」と言えば何やら紳士的な人物だと世間は思い描いてしまうだろう。その理由を考えてみると、おそらく血筋の良さに原因があるのではないだろうか。

そう、外務省は立派な血統の下に育った人間が多い。中でも父親も外務官僚という人間が多いのだ。

官庁の中で、外務省ほど二世が多い役所はない。「親子揃って外務官僚」なんていうのは、まだいいほうだろう。中には「祖父の代からの外務官僚」などという輩も少なくないのだ。……………

本書エピローグより

「一連の事件で、外務省は国民から信用を失墜させた。私もその主犯の一人である以上、声高に外務省を批判したり、あるべき論を述べたりすることなどできる立場にないのかもしれない。

ただし、省内のカネにまつわる仕事を長く受け持ってきただけにこの部分の事態や矛盾については、誰よりも熟知している。

公務員の世界から離れて、かつての職場を振り返ってみると、公務員にはまだまだ改めなければいけない点があるのも事実なのである。」